

佐々木哲生

保育連盟教材資料委員会副委員長

大切な人と今日話そう

「おはようございます」「いただきます」「ごちそうさま」「いってらっしゃい」「ありがとう」「おつかれさまでした」「また、明日」「元気でね」「おやすみ」これらは、多くの人たちが何気なく口にしている日常の言葉です。

そして、これらは平成7（1995）年1月17日5時46分に発生した「阪神・淡路大震災」、平成23（2011）年3月11日14時46分に発生した「東日本大震災」、平成28（2016）年4月14日21時26分、わずかその2日後の4月16日1時25分に発生した「熊本地震」、そして令和6（2024）年1月1日16時10分に発生した「能登半島地震」、そのいずれの地域でも被災された方々が、日常口にしておられたありふれた言葉でもあり、もしかすると身近な誰かと最後に交わされた言葉だったかもしれません。

歳を重ねると、だんだん一年の過ぎるのが早く感じられるようになります。そして誕生日が来ると、その度に「もうそんな年齢になったのか」と、ため息がもれたりします。近年の日本人の平均寿命は男性81歳・女性87歳だそうです。父の享年が96だったので一応自分もそこまでする目標にして

健康管理にも留意しています。そこで、96を24時間で割ると、1歳＝15分に換算できるので、20歳は人生では5時、40歳は10時、60歳は15時、80歳は20時とみなすことができます。日没の時間は季節や地域にも異なりますが、春分・秋分の頃は季節と、私の住んでいる地域は17時17分だそうです。すから69歳あたりが人生における日没の時間になるようです。

私たちは、明日何が起こるかわからないだけでなく、明日の朝これまでのように目が覚める保障など誰もしてくれていないのに、明日が来ることはまるで当たり前のことであるかのように思っていたりします。

けれども、明日が来るのは決して当たり前のことではありません。私たちは、そのことをこれまで繰り返し何度も教えられてきました。だから、もし何か予期しないことがおきたとしても、決して後悔することのないよう、今、出会っている子どもたちや周囲の人たちを大切な人と想い、一日一日を大切な人と話す日だと心に決めて話すことを心がけたいものです。